

法吉地区まちづくり総合戦略

～福祉と防災が融合する安全で安心なまちづくり～

1 このまちの特性

(1) 古くて新しいまち

「法吉」は、奈良時代に完成した『出雲国風土記』にその名を見ることができるなど、古い歴史を持つ地域である。古くからの農村地帯であったとされるが、昭和40年代半ばより徐々に団地造成や宅地開発が進み、新旧住民が混在するまちとなっている。



(2) 福祉のまち

法吉地区は、全国的にも大きな評価を受けている「災害時における地域での助け合い事業」（おねがい会員・まかせて会員事業）を展開するなど、現在も福祉活動が活発な福祉のまちである。

(3) 水害のまち

法吉地区は、北部に山塊が連なり、その南側には丘陵地帯と平坦地、そして中小河川がない交ぜに広がっている。平坦地には旧松江市内でも有数の低地帯があり、極めて水害が発生しやすい地区がある。

(4) 原子力発電所に隣接しているまち

法吉地区の北辺から中国電力島根原子力発電所まではわずか数キロ、原発のまちでもある。



2 このまちの合い言葉

このまちの合い言葉は「住みたい 住みつけたいまち 法吉」である。

だれの作った言葉なのか不明であるが、今みんなが自然に口ずさんでいる。響きのいい、みんなの合い言葉である。

平成 29 年 7 月豪雨災害

3 これまでの取り組み

「住みたい 住みつけたいまち 法吉」の実現に向けて、これまで自治会を始めとする各種団体が連携し、幅広い取り組みを進めており、平成 22 年には「法吉地区あんぜん・あんしんネットワーク」が消防庁の「防災まちづくり大賞」を受賞している。

4 福祉と防災の融合—法吉のまちづくり戦略

この地域の特性やこれまでの取り組みを踏まえ、それを一層充実させていくことが必要であり、改めて次の 3 つを重点的に進めるものとし、それをこれからの法吉のまちづくり戦略としたい。

- ①法吉地区災害対策本部会議を中心に、法吉地区自治会連合会、法吉地区自主防災隊等連絡協議会等が連携した、災害への備え
- ②法吉地区社会福祉協議会を中心に民生児童委員協議会、福祉推進員会等が連携した、福祉の推進
- ③これらを担当する組織、人がお互いに顔の見える、助け合えるしっかりした関係を構築す

ること！

5 これからの具体的な取り組み

法吉のまちづくり戦略に基づき、これから次のような取り組みを進める。

(1) 災害に強いまちづくり

①防災訓練の継続

災害対策本部会議や消防団、自治会連合会、社会福祉協議会、「まかせて会員」等が一体となった防災訓練を、今後とも年1回以上、内容の充実と各参加者の負担の軽減を図りながら継続して行う。

②防災訓練の拡充

地区全体の訓練のみならず、各自治会や各団体の特性に合わせた訓練を、災害対策本部会議や消防団、自主防災隊等連絡協議会などが協力して支援する態勢を作る。

(2) 災害への対応態勢と備品の整備

①対応態勢の整備

災害発生時あるいは公民館避難所の設置に対応して、災害対策本部会議構成員や公民館職員、さらに松江市役所職員等を含む対応態勢の整備を図る。



②備品の充実と利用の利便性の向上

備品等の整備・充実を進めるとともに、倉庫を整備し利便性の向上を図る。

(3) 団体のアイデンティティの向上

災害対策本部を含め、各団体の帰属意識と責任意識の高揚を図るとともに、他者から見てわかりやすく協力しやすいよう、災害対策本部会議や社会福祉関係団体等に必要な制服の貸与等を行う。

6 必要な予算 1,000,200円

	品名	単価	個数	金額	備考
1	防災倉庫設置費	302,500	1	302,500	防災用具を一括管理する
2	簡易トイレ	4,540	10	45,400	自治会等に貸し出し可
3	防災グッズセット(展示用)	30,800	2	61,600	自治会等に貸し出し可
4	訓練用 AED セット	176,000	1	176,000	
5	ジャンパー（自治会長）	3,300	20	66,000	防災訓練時等、属性を明らかにする ⇒団体のアイデンティティの向上
6	ジャンパー(災害対策本部構成員)	3,300	20	66,000	(民生児童委員、自主防災隊は整備済み)
7	ジャンパー(福祉推進員)	3,300	60	198,000	
8	マーク版代	9,900	1	9,900	
9	ビブス（訓練専用）	1,870	40	74,800	原則として貸与とする。
	合計	-	-	1,000,200	